

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（県事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討 等	今後の事業の見通し	委員会意見等
						採択年	総事業費	進捗率				
						目標年	用地費	進捗率				
森林整備事業（林道開設）	1	浅谷越線	熊野市		【全体事業概要】 利用区域面積 1,049ha 幅員 4m 延長 12,700m	H6	2,410	49.0%	開設延長7,546m 平成13年6月に、これまでの木材生産を主体とした政策から、森林の持つ多様な機能を持続的に発揮させるための政策への転換を図るため、林業基本法が大きく改正され、森林・林業基本法として成立した。	B/C = 1.86 路肩の縮減やコスト縮減が図れる補強土壁工法を積極的に採用し、コスト縮減に努める。	コスト縮減と環境配慮に努めながら早期完成を目指すし、事業を継続したい。	第4回三重県公共事業評価審査委員会において審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 ただし、次のとおり意見を付すものである。 一、林道を活用した林業の振興を図る中で生産者側と消費者側の課題及び要望について総合的に検討のうえ、県として果たすべき役割を明確にし、市場において一層の木材利用が図られるよう努められたい。
					【事業目的】 搬出コスト等の低減を図ることによって林業生産性を向上させ、豊富な森林資源を活かし、林業の活性化を図るとともに、森林の適正管理を推進する。	H20	-	-				
森林整備事業（林道開設）	2	経ヶ峰線	芸濃町・安濃町・美里村		【全体事業概要】 利用区域面積 1,099ha 幅員 5m 延長 15,100m	H6	1,311	37.3%	開設延長5,257m 平成13年6月に、これまでの木材生産を主体とした政策から、森林の持つ多様な機能を持続的に発揮させるための政策への転換を図るため、林業基本法が大きく改正され、森林・林業基本法として成立した。	B/C = 1.25 路肩の縮減やコスト縮減が図れる補強土壁工法を積極的に採用し、コスト縮減に努める。	コスト縮減と環境配慮に努めながら早期完成を目指すし、事業を継続したい。	第4回三重県公共事業評価審査委員会において審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 ただし、次のとおり意見を付すものである。 一、林道を活用した林業の振興を図る中で生産者側と消費者側の課題及び要望について総合的に検討のうえ、県として果たすべき役割を明確にし、市場において一層の木材利用が図られるよう努められたい。 一、三重県の森林・林業政策の観点から課題を整理のうえ、今後の森林・林業施策の方向を明確にするよう求めるものである。
					【事業目的】 林業生産性の向上を図り林業生産活動を活性化させることによって、森林資源を有効活用するとともに、森林の適正管理を促進し、公益的機能の発揮を図る。	H20	-	-				

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（県事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討 等	今後の事業の見通し	委員会意見等
						採択年	総事業費 工事費	進捗率				
						目標年	用地費	進捗率				
防災ダム事業	3	被川・寺家池地区	鈴鹿市		<p>【全体事業概要】</p> <p>本地区は、鈴鹿市南東部に位置し、被川池と寺家池の両池は、107haをかんがいする農業用ため池として重要な役割を果たしていますが、池の下流域では、洪水により農地・農作物・農業施設等に多大な被害を及ぼしていることから、両池に洪水調整機能を持たせるために堤体改修と池の浚渫を計画しています。</p>	H.6	2,610	79.8%	<p>平成6、7年度に全体実施設計を行い、平成8年度から平成11年度にかけて事業用地の買収を行いました。</p> <p>平成12年度から平成15年度にかけて寺家池の堤体工事及び浚渫工事を行い、平成16年度以降、一部の浚渫工事と法面保護工事を残しています。</p> <p>また、被川池については、平成16年度以降堤体工事及び浚渫工事を実施する予定です。</p>	<p>当初、池の浚渫に伴う残土処分については、池周辺の2kmの範囲で処分地を探すこととしていましたが、大型店舗の進出や小規模な宅地開発により、池周辺地域では残土処分地を確保できず、やむを得ず遠方への処分となりました。</p> <p>一方、下流農地は、ほとんど転用もなく計画当時とほぼ同じ状況にあり、受益農家は早期の洪水調節能力のある防災ため池の完成を望んでいます。</p>	<p>現在の事業の進捗率は79.8%となっております。</p> <p>今後とも厳しい財政事情ではありますが、平成20年度完了をめざします。</p>	<p>第4回三重県公共事業評価審査委員会において審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。</p> <p>ただし、住宅に近接する当現場の状況から堤防施設の安全対策だけではなく、事故防止の啓発活動などにより水事故対策を徹底されるよう求めるものである。</p>
					H.20	1,331	95.7%	<p>【事業目的】</p> <p>ため池下流域の洪水被害を防止するために、被川池と寺家池の2つのため池に、洪水調整機能を持たせることにより洪水被害を未然に防止し、安定した農業経営を営めるようにします。</p>				

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（県事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等
						採択年	総事業費	進捗率				
						目標年	用地費	進捗率				
ふるさと農道整備事業	4	上川地区	松阪市		【全体事業概要】 道路工 L = 2, 540 m 舗装工 17, 993 m <sup>2</sup>	H 6	1,040	91.0%	道路工 L = 2, 282 m 用地買収において、鑑定評価の結果用地買収単価が増額したことと、路床改良及び河川の付け替えを行った結果、事業費の増を行いました。用地買収や他機関との調整に日時を要した。起点側のJR高架の完成国道42号松阪バイパスの工事が着工しました。	費用対効果は、1.56になりました。コスト縮減は、再生砕石や再生アスファルトの利用や残土の他事業利用により68百万円の縮減を図っています。	16年度に未買収箇所の買収を完了し、路体工を施工します。17年度には舗装工を施工して完了する予定です。	第3回三重県公共事業評価審査委員会において審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 第3回三重県公共事業評価審査委員会の総括意見 一、費用および便益の算出に当たっては、将来を見据えて著しく過大とならないよう実態を可能な限り反映したもについて算出対象とされるよう検討されたい。 一、事業を計画するに当たっては、費用が広く県民の負担によるものであること十分認識され、計画時点における事業費を十分精査されることを強く望むものである。 一、延長1メートルあたりのコストと工期の関係について統計等の処理をした分析結果を報告されたい。 一、今後、当初計画時点から事業完了に至るまでの関連資料について、当委員会への説明に必要な資料は適正に管理されたい。
					本地区の受益地である松阪市上川町、山添町はほ場整備もほぼ完了していますが、両集落を結ぶ道路は山沿いを這うような蛇行した幅員2m程度の未舗装が存在するのみでした。そのため農業用施設への流通に支障をきたしている。	H 17	277	97.0%				
ふるさと農道整備事業	5	度会北部地区	度会町		【全体事業概要】 道路工 L = 2, 810 m 橋 橋梁工 3	H 6	1,722	50.0%	道路工 L = 1, 144 m 橋梁工 1 橋	費用対効果は、1.77になりました。コスト縮減は、再生砕石の利用や残土運搬コスト縮減により百万円の縮減を図っています。	、厳しい財政状況ですが、用地買収が完了していますので、残期間内に十分完了できます。	第3回三重県公共事業評価審査委員会において審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 第3回三重県公共事業評価審査委員会の総括意見 一、費用および便益の算出に当たっては、将来を見据えて著しく過大とならないよう実態を可能な限り反映したもについて算出対象とされるよう検討されたい。 一、事業を計画するに当たっては、費用が広く県民の負担によるものであること十分認識され、計画時点における事業費を十分精査されることを強く望むものである。 一、延長1メートルあたりのコストと工期の関係について統計等の処理をした分析結果を報告されたい。 一、今後、当初計画時点から事業完了に至るまでの関連資料について、当委員会への説明に必要な資料は適正に管理されたい。
					【事業目的】 当地区は、茶の生産が盛んな地区で農作業機械の大型化へ移行しつつあるなか、地区内に主要な幹線道路がなく、支障をきたしています。	H 20	126	100.0%				

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（県事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討 等	今後の事業の見通し	委員会意見等
						採択年	総事業費	進捗率				
						目標年	工事費	進捗率				
ふるさと農道整備事業	6	道行竈地区	南島町		【全体事業概要】 道路工 L = 831 m トンネル工 L = 504 m（内数）	H10	1,737	0.0%	用地取得が困難になり、新しいルートは、第2種伊勢志摩国立公園保護地域内の自然環境に十分配慮し、なるべく切土を少なくしトンネルを長く計画しました。	費用対効果は、1.35になりました。コスト削減は、再生砕石や再生アスファルトの利用により80万円の縮減を図っています。	公団混乱箇所を入会林野整備法に基づき用地整備し、現在では用地買収の目途がついていきますので、財政事情も厳しい時ではありますが、工期内に完成する予定であります。	第3回三重県公共事業評価審査委員会において審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 第3回三重県公共事業評価審査委員会の総括意見 一、費用および便益の算出に当たっては、将来を見据えて著しく過大とならないよう実態を可能な限り反映したもののについて算出対象とされるよう検討されたい。 一、事業を計画するに当たっては、費用が広く県民の負担によるものであること十分認識され、計画時点における事業費を十分精査されることを強く望むものである。 一、延長1メートルあたりのコストと工期の関係について統計等の処理をした分析結果を報告されたい。 一、今後、当初計画時点から事業完了に至るまでの関連資料について、当委員会への説明に必要な資料は適正に管理されたい。
					H24	57	0.0%					

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（県事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
						目標年	工事費	進捗率					
広域農道整備事業	7	伊賀2期地区	上野市 名張市 青山町		<p>[全体事業概要] 道路工 L=17,630m 橋梁工 6橋</p> <p>[事業目的] 伊賀地域の道路は、地域の中央部を東西に縦貫する産業動脈である名阪道路が整備されているものの、上野市他1市1町を相互に連絡する基幹道路が未整備となっているこのため伊賀地域内を回廊的に結ぶ計画です。</p>	元年	11,427	88.0%	<p>道路工 L=11,809m 橋梁工 4橋</p> <p>前回のH11年再評価時よりH16年度現在全体事業費9,477百万円（769百万円増）で計画しています。</p>	<p>費用対効果は1.42となりました。伐採木の法面緑化材として再利用7百万円 残土の再利用で110百万円のようなコスト削減をおこない今後もコスト削減に努めます。</p>	<p>厳しい財政状況ですが、協議調整など日時を要する作業は、平成16年度に完了する見込みであり、また県民しやわせプランにおける重点化事業として計上してあります。平成18年度には、完了する見込みです。</p>	<p>第3回三重県公共事業評価審査委員会の総括意見 一、費用および便益の算出に当たっては、将来を見据えて著しくて過大とならないよう実態を可能な限り反映したものであること十分認識され、計画時点における事業費を十分精査されることを強く望むものである。 一、延長1メートルあたりのコストと工期の関係について統計等の処理をした分析結果を報告されたい。 一、今後、当初計画時点から事業完了に至るまでの関連資料について、当委員会への説明に必要な資料は適正に管理されたい。</p> <p>第4回三重県公共事業評価審査委員会において審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 ただし、この農道の計画時点における経済性の検討が不足していたと思慮されたことから、今後、道路関係事業の計画にあたっては、総合行政の観点から部局を越えて最も経済的な線形を十分検討されるよう求めるものである。</p>	
						H18	1,580	80.4%					

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（県事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討 等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
						目標年	工事費	進捗率					
農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	8	上野依那古2期地区	上野市		【全体事業概要】 道路工 L = 2, 400m	H 6	560	37.0%	道路工 L=297m 当地区の山林は、県外所有者が多く、買収に日時を要しています。また、計画路線上に市天然記念物や稀少植物が存在しているため、ルートの見直しを行いました。平成9年度に上野新都市がオープンして当道路への通勤者も多くなりました。	費用対効果は1.67となりました。伐採木の法面緑化材として再利用や残土他事業の再利用、再生砕石や再生アスファルトの利用で9.8百万円のようなコスト削減をおこない今後もコスト削減に努めます。	新しいルートは、ほ場整備内の道路を拡幅利用するよなルートとなるため、用地買収は、スムーズに進み工期ないに完成する予定であります。	第3回三重県公共事業評価審査委員会の総括意見 一、費用および便益の算出に当たっては、将来を見据えて著しくて過大とならないよう実態を可能な限り反映したものであることについて算出対象とされるよう検討されたい。 一、事業を計画するに当たっては、費用が広く県民の負担によるものであること十分認識され、計画時点における事業費を十分精査されることを強く望むものである。 一、延長1メートルあたりのコストと工期の関係について統計等の処理をした分析結果を報告されたい。 一、今後、当初計画時点から事業完了に至るまでの関連資料について、当委員会への説明に必要な資料は適正に管理されたい。  第4回三重県公共事業評価審査委員会において審査を行った結果、計画交通量の妥当性について判断できなかったため、現地調査を行うこととする。	
						H 2 1	194	46.4%					

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（県事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討 等	今後の事業の見通し	委員会意見等
						採択年	総事業費	進捗率				
						目標年	工事費	進捗率				
海岸保全施設整備事業	9	村松地区	伊勢市		<p>【全体事業概要】</p> <p>本地区は、伊勢湾西南海岸の伊勢市北部に位置しています。昭和28年の台風13号で甚大な被害を受けその後海岸堤防は復旧されましたが、築後45年が経過し、老朽化が著しく堤防決壊の恐れがあることから、堤防L=1011mの改修を計画しています。</p>	H6	913	80.3%	<p>平成6年度から平成8年度まで調査設計を実施し、翌平成9年度に工事用道路の用地買収を行いました。</p> <p>平成9年度より堤防改修工事に着手し、平成15年度までに堤防L=830mを施行し、平成16年度には堤防L=90mを施工します。</p> <p>隣接する伊勢湾西南海岸の国土交通省直轄区間では平成5年度より改修工事に着手しています。</p> <p>また、本地区に隣接する北浜工区は昨年度までに表のり堤防を完成しており本年度裏のり工を施行する予定です。</p> <p>本地区周辺の堤防整備も順次進められています。</p>	<p>浸水による農地及び家屋等の資産被害及び、営業停止損失被害を算定し費用対効果は42.98となりました。</p> <p>また、コスト削減については、堤防管理道路において、再生アスファルト合材・再生路盤材の使用によりコスト削減を図りました。</p>	<p>現在の事業進捗は80.3%となっております。</p> <p>今後とも厳しい財政事情ではありますが、平成18年度完了をめざします。</p>	<p>第4回三重県公共事業評価審査委員会において審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。</p> <p>第4回三重県公共事業評価審査委員会の総括意見</p> <p>今回、海岸保全事業における費用便益分析の考え方について、新設工事と改修工事による効果の違いが論議となった。したがって、両者の便益の考え方を整理検討のうえ報告されたい。</p>
					<p>【事業目的】</p> <p>堤防背後には、ほ場整備が行われた優良農地、農業集落、公共施設等があり、堤防決壊の恐れを地域住民は心配しています。</p> <p>地域住民の心配を解消すべく堤防を改修して、安全・安心な海岸づくりをします。</p>	H18	3	100.0%				



平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（県事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討 等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
						目標年	工事費	進捗率					
地域水産物供給基盤整備事業	10	舟越	鳥羽市		<p>【全体事業概要】</p> <p>外郭施設                      1号防波堤 L=110m                      2号防波堤 L=210m                      1号突堤 L=60m                      2号突堤 L=55m                      水域施設                      -3.0m泊地                      A=5,200m<sup>2</sup>                      係留施設                      -3.0m岸壁 L=406m                      輸送施設                      道路 L=982m</p>	H6	5,005	64.0%	<p>外郭施設                      1号防波堤 L=110m                      2号防波堤 L=210m                      水域施設                      -3.0m泊地                      A=1,468m<sup>2</sup>                      係留施設                      -3.0m岸壁 L=156m                      輸送施設                      道路</p>	<p>【全体計画の変更】                      当漁港は、第9次漁港整備長期計画（H6～H13）のなかで、修築事業として整備を行ってきた。その後、H13年に漁港漁場整備法の改正があり、H14年に県営地域水産物供給基盤整備事業としてH22年までの整備計画を立て整備をすすめることとなった。                      [なお、H12年度に再評価を受けましたが、この時点ではこれまでの長期計画期間が5ヶ年であったことから、残事業（残計画）をH13～H17として審議していたところである。]</p>	<p>費用便益比                      B/C= 1.395</p> <p>コスト縮減の可能性                      岸壁背後の用地盛土材料に他事業の残土を使用したほか施行時期の調整により地盤改良における特殊作業船の回航費の軽減を図った。今後は道路舗装の路盤材に再生材を使用するなど更にコスト縮減を図る。</p> <p>代替案の検討                      在来の3港を再度整備することも考えられますが、当地区の地理的制約から施行が困難であり、また多額の経費を必要とするため、現計画が妥当であると判断している。</p>	<p>H17年度で外郭施設がほぼ完了することから、3漁港より荒天時だけでなく平時においても早期利用の強い要望が出されている。このため、H18からは係留可能水域（東側半分）の供用を予定している。現時点での進捗率は64%となっており、これまでの予算ベースから勘案してH22年度には事業完了が見込まれる。</p>	
						H22	116	100.0%					
											<p>【事業目的】</p> <p>離島である答志島3漁業集落の漁船は、荒天時に安心して停泊できる岸壁が不足していることから、本土に避難しなければならない状態である。また、離島という地理的条件から、水産加工場用地や漁港施設用地の確保が困難な状況にある。これらのことを解消するため、島の北側の入り江に本漁港を整備し、島民が安心して生活できる環境を創出するとともに漁業の発展に寄与することを目的とする。</p>		



平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（市町村事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					
						目標年	工事費	進捗率					
河川事業	101	準用河川萱生川 統合準用河川改修	四日市市		<p>【全体事業概要】                      全体延長 L=640m                      計画流量 Q=25m<sup>3</sup>/s                      築堤工 L=1,136m                      掘削 V=11,368m<sup>3</sup>                      護岸工 L=1,139m                      樋門・帯工 4箇所                      橋梁 3橋                      鉄道橋 1基                      サイフォン 2基</p> <p>【事業目的】                      周辺家屋への浸水、氾濫防止のため、断面不足の河積の拡大および護岸整備を行い、治水安全上の向上を図る。</p>	H1	1,320	43.0%	起業用地は900.0m <sup>2</sup> の内626.2m <sup>2</sup> が買収済みである。改修区間は下流部より300mが完了。 平成14年度以降は三岐鉄道橋架け替えに伴う協議により、現在に至るまで事業休止中。	昭和49年の集中豪雨により多くの家屋が浸水しており、河川改修の早期実施を望んでいる。	費用便益比 B/C=3.85 再生材や現地発生材の使用、自然に配慮した川づくりへの見直しにあたって良質な工法、材料を選定し、コストの縮減につとめる。	三岐鉄道橋架け替えの改修の目処がついたため、平成17年度より事業を再開し、平成30年度の完成を目標に事業を推進していく。	
							1,100	37.0%					
						H30	220	73.0%					
河川事業	102	準用河川九手川 統合準用河川改修	松阪市		<p>【全体事業概要】                      延長 881m                      Q=25m<sup>3</sup>/s                      築堤工 1,762m                      掘削工 7,012m<sup>3</sup>                      護岸工 1,762m                      床固工 1式                      鉄道橋補強 1橋                      道路橋 1橋</p> <p>【事業目的】                      河積拡大および横断構造物の補強、改築を行い、浸水などの被害を防止する。</p>	H6	658	26.0%	平成11年度までに下流より412m区間で暫定改修が完了している。 平成12年度以降はJR紀勢線の橋梁改修に係る協議が難航しており、現在に至るまで事業休止中。	流域上流における宅地開発に伴う流出量の増加により、度々浸水被害にみまわれており、河川改修に対する地元の要望は強い。 また、親水性や多自然性に配慮した川づくりに対する要望も強まってきている。	B/C=11.22 再生材や現地発生材の使用、自然に配慮した川づくりへの見直しにあたって良質な工法、材料を選定し、コストの縮減につとめる。	懸案となっていたJR橋梁の改修に目処がついたため、平成17年度より事業を再開し、平成30年度の完成を目標に事業を推進していく。	
							517	29.0%					
						H30	141	11.0%					

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（市町村事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等		
						採択年	総事業費	進捗率						
						目標年	工事費	進捗率						
						目標年	用地費	進捗率						
水道事業	103	ライフライン機能強化等事業（石綿セメント管更新事業）（松阪市内）	松阪市		<b>【全体事業概要】</b> 計画給水人口 154,700人 計画一日最大給水量 101,000m <sup>3</sup> 石綿管更新延長 75 L= 9,943m 100 L=13,353m 150 L=14,325m 200 L=18,148m 250 L= 2,257m 300 L= 1,288m 600 L= 4,550m 計 L=63,864m	H111	5,400	72.0%	石綿管更新済延長 75 L= 8,216m 100 L= 8,114m 150 L=12,547m 200 L=13,935m 250 L= 1,640m 300 L= 599m 600 L= 900m 計 L=45,951m	松阪市の総給水量は、毎年横這い傾向であり、将来的にも給水量が急激に増加するようないが、水道事業の使命である「安心で安全な水を安定供給すること」から、今後においても石綿管更新事業の継続は不可欠であり、配水管の新設や配水池緊急遮断弁の設置等と連携してライフラインの確保を進めていきたい。	費用便益比は、1.11である。コスト縮減については、管路の浅層埋設による掘削量の削減、再生材料の使用による材料単価の縮減、他事業と同時期施工をすることによる舗装復旧費の縮減を図っている。代替案については、老朽管の解消を目的としていることから、新管を埋設する本事業以外の方法はなく現計画が妥当と判断している。	平成11年度より事業を着手し現段階の進捗率は72.0%となっており、今後についても他事業等とより連携を強化し平成20年度をもって石綿管更新事業を完了する予定です。		
						5,400	72.0%							
					H20	-	-							

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（市町村事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					
						目標年	工事費	進捗率					
水道事業	104	ライフライン機能強化等事業（石綿セメント管更新事業）（桑名市内）	桑名市		<b>【全体事業概要】</b> 計画給水人口 134,000人 計画一日最大給水量 81,000m3 管路更新延長 23.97km	H11	1,263	51.2%	管路更新延長 17.6km	水道管路はライフラインであり、市民の震災時における安定給水の要望も高まっており、安全な水質の供給とともに地震に強い水道施設の構築が望まれている。	・石綿セメント管を更新することにより、漏水事故は減少し、市民の日常生活への影響を軽減できる。 ・また、有効率・有収率の向上を図ることができる。 ・浅層埋設、再生材料の使用、他事業との同時期施工によりコスト縮減を図る。	事故・地震に強い水道施設の構築し安定給水を図るには、老朽石綿セメント管の全面更新が必要であるため事業を継続する。	
						H23	-	-					

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（市町村事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討 等	今後の事業の見通し	委員会意見等
						採択年	総事業費	進捗率				
						目標年	工事費	進捗率				
水道事業	105	ライフライン機能強化等事業（石綿セメント管更新事業）（三重郡菟野町内）	菟野町		<p>【全体事業概要】</p> <p>計画給水人口 49,800人 計画1日最大給水量 31,000m<sup>3</sup> 導・送・配水管総延長 251km</p>	H6	14.07	86.2%	<p>下水道の面整備事業が平成7年度から始まり住民感情の緩和のために同時期の布設替の調整をし、現在（平成15年度末）33.68km(86.2%)が完了しましたが残り5.38km(13.8%)を今後も積極的に布設替を推進し早期の完成を目指しております。</p> <p>1.平成5年度より推進していますがライフラインであり、内容の変更はありません。 2.周辺環境の変化、給水区域内における大規模な開発計画等はなく、水需要の変化はありません。 3.住民の要望である、質の高い水道水の供給、管破損による濁水及び一時断水等による苦情が改善される見込みであります。</p>	<p>費用（布設替工事費）1,814百万円に対し便益（漏水損失額と管理費の低減）2,421百万円となり費用便益比1.33となり事業の実施は妥当と判断できる。 コスト縮減の可能性は当初計画より浅層埋設と路面復旧の同時施工等により16%の縮減があり、さらに努力していきます。 代替案は現実性がなく現計画を推進する。</p>	<p>残りの事業量は5.38km(13.8%)であり、他事業との調整を計り平成19年度には完了する計画であります。</p>	
						H19	--	--				

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（市町村事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
						目標年	工事費	進捗率					
水道事業	106	広域化促進 地域上水道 施設整備事業（一志郡 嬉野町内）	嬉野町		<p>【全体事業概要】 計画給水人口：19,980人 計画一日最大給水量：11,610m<sup>3</sup> 管路延長：4,580m 配水池：2池</p>	H5	5,320	60.0%	<p>配水管延長 L=39.3Km 配水池1池 測量試験 L=42.9Km</p>	<p>平成15年度において、井戸枯れが発生し飲料水の確保が困難となった住民から要望が陳情され矢下地区の水域追加を行い、一日最大給水量を11,610m<sup>3</sup>・給水人口を19,980人管路延長3.2Km追加する変更を行いました。現在のところ、中川区画整理事業の影響で、給水人口・給水量ともに増加の傾向があり、今後もこの傾向は続くものと考えています。</p>	<p>本事業の費用対効果の便益比は11.60となりました。コスト縮減では、再生材の使用-5,783千円 浅層埋設-8,330千円 周辺事業-24,750千円 合計-39,863千円 今後も、コスト縮減を念頭において事業を進めます。代替案は現在の計画が妥当であると考えているためありません。</p>	<p>今後は、厳しい財政状況ですが、単年度内に完成する工事規模を考慮して未給水地域の矢下地区・中川区画整理地区を18年度内に完成させて、未給水地区（矢下）を平成19年度4月には、給水開始をする予定です。</p>	
							5,306	60.0%					
						H18	14	100.0%					
					<p>【事業目的】 町民の生活水準の向上及び、都市化による町民の生活様式の多様化や人口増加に伴う水需要の増大に対処すると共に、未給水地区の施設整備を行い、安定した飲料水を供給することを目的とする。</p>								

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（市町村事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					
						工事費	進捗率	事業進捗内容					
						目標年	用地費	進捗率					
水道事業	107	水道広域化施設整備事業（広域化促進地域上水道施設整備事業）（一志郡三雲町内）	三雲町		<p>【全体事業概要】</p> 計画給水人口 12,540人 計画一日最大給水量 9,000m <sup>3</sup> 配水場用地 A=3,016m <sup>2</sup> 配水池築造PC造 V=1,200m <sup>3</sup> 2池 管理棟築造 1棟 配水ポンプ設置 37kw x 4 配水ポンプ設置 18.5kw x 1 電気計装設備 1式 自家発電設備 1式 配水管整備 250～100 L=19,610m	H7	2,506	39.7%	配水場用地 A=3,016m <sup>2</sup> 配水池築造PC造 V=1,200m <sup>3</sup> 1池 管理棟築造 1棟 配水ポンプ設置 37kw x 3 電気計装設備 1式 自家発電設備 1式 配水管整備 L=7,593m 全体事業進捗率 39.7%	事業採択時に比べると、コスト縮減対策、人件費下落等による総事業費の縮減が可能とってきている。 将来予想される、東南海・南海地震に備えて、施設の耐震化、給水拠点の確保が望まれている。	費用対効果(B/C)=13.78 コスト縮減対策浅層埋設の実施及び再生砕石の使用による総縮減額予定は約40百円。 代替案 独自に豊潤良質な取水を得ることは困難であり、実現可能としても、総事業費及び維持管理費の面において、現在のところ有効な代替案とは成り得ない。	平成7年度から事業が稼働し、平成15年度時点においては、進捗率が約40%である。計画配水池用地は取得済みであり、平成19年度頃に既存配水場に配水池1池・ポンプ施設を増設して、将来的に見込まれる水量増加に対応するものとし、平成22年度には事業完了する予定。	
						H22	49	100.0%					

平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（市町村事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を進める社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
						目標年	工事費	進捗率					
水道事業	108	広域化促進 地域上水道 施設整備事業（志摩市 志摩町内）	志摩市		<b>【全体事業概要】</b> 計画給水人口 12,800人 計画1日最大給水量 6,150m3 管路延長 44.78km 配水池 1池	H5	3,374	77.2%	管路延長 40.5km(90.5%) 配水池用地 3,681m2	人口及び給水量は 経済状況の悪化に 伴い、一時的な観 光客等の減少傾向 であり水需要に大 きく影響でてお り、今回計画を見 直し、給水人口1 2,800人、1 日最大給水量6, 150m3/日と して変更する。	B/C=20.55 全域自然流下方式 に変更し、維持管 理費の軽減、道路 工事との同調施 工、再生材料の利 用、管の浅層埋設 等によりコスト縮 減を図る。	15年度から国道 260号線バイパ ス工事が着手し、 16年度におい て、調整を図りな がら進め19年度 には完了する見込 みである。	
						H19	20	100.0%					



平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（市町村事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
						目標年	工事費	進捗率					
下水道事業	109	磯部都市下水路	磯部町		<b>【全体事業概要】</b> 集水面積 64ha 幹線水路 1,268m(既設含) ホンブ 600×1基(既設) ホンブ 1350×1基(既設) ホンブ 1000×1基(増設) ホンブ 1350×1基(増設)	S53	4,771	21.4%	S53～S62年度に一旦整備が完了したが、その後の経年変化による全体計画の見直しを行ったところ、排水路及びポンプ施設の改築、拡充を図る必要が生じたことにより、再度事業に着手するものである。  当初全体計画に対する整備状況 ・管渠延長 972/972(m) 100% ・ポンプ能力 4.33/4.33(m <sup>3</sup> /s) 100% ホンブ供用開始時期 600 S58.4 1350 S63.4 改定全体計画に対する整備状況 ・管渠延長 0/1,268(m) 0% ・ポンプ能力 4.33/10.13(m <sup>3</sup> /s) 43%	当初全体計画から25年余りが経過し、施設の一部は耐用年数を超過し改築の時期をむかえている。一方、周辺の土地利用形態も変化し、流域面積が増大し予想以上の市街化が進んでいる。また、現行の計画基準により見直しを行ったところ、最近の豪雨傾向により、住民の生命と財産を守る本事業に対し、住民の要望が強くなっている。	費用便益比 B/C = 1.13 純便益 B-C = 393.1百万 便益 B = 3,439.3百万 費用 C = 3,046.2百万  コスト削減の可能性 既存施設の有効利用を図り、修繕で対応できるものは利用していく。  代替案の検討 集水区域を分割して新たな位置にポンプ場を増設する場合、市街地での新たな用地取得が非常に困難である。	平成17年度より測量設計より再度事業に着手し、まず最下流にあるポンプの整備を先行することにより、市街地浸水の危険性を低減する。その後順次排水路の整備を行い、H29年に事業を完了する予定。	第2回三重県公共事業評価審査委員会において審査を行った結果、集水域の変更理由、主たる溢水地点、調整池の機能、工事費の内訳（当初計画との比較が可能なもの）などの説明が不足であり、排水計画の妥当性を判断できなかった。今回、第3回三重県公共事業評価審査委員会において再審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。  ただし、当初計画時点に比べて今回の事業費が、事業を取り巻く社会経済状況に一定の変化があったとしても著しく高額となっており、さらなるコストの削減および縮減策を検討し具体的な額を本年度内に示すよう求めるものである。
					H29	30	100.0%						

## 平成16年度三重県公共事業再評価箇所一覧表（市町村事業）

（単位：百万円）

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討 等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
						目標年	工事費	進捗率					
下水道事業	110	御浜町特定環境保全公共下水道（阿田和处理区）	御浜町		<b>【全体事業概要】</b> 汚水事業 計画処理区域面積 79ha 計画処理人口 3,300人 計画汚水量 2,460m <sup>3</sup> /日 最大管渠延長 24.974km	H7	4,686	93.0%	汚水事業 平成12年10月に供用開始 整備区域面積79ha 整備人口3,300人 流入水量2,290m <sup>3</sup> /日 日最大整備管渠延長24.974km	平成13年度に全管渠の整備を完了し、事業推進の障害となるような地元情勢、社会情勢の変化はなく、事業に対する住民の理解や協力も得られている。	費用便益費（B/C） 汚水1.42（合併）管渠最小土被りの減少、マンホール間隔の見直しによる設置個数の減、再生材の利用等によりコストの縮減を図った。	公共用水域の水質保全のため、供用後の水洗化（下水道への接続）に対するさらなる普及啓発に努め、汚水量の増加に伴い、残る終末処理場の増設を行う。	第2回三重県公共事業評価審査委員会において審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、一層のコスト縮減に努めるとともに、具体的な縮減計画額を示されるよう求めるものである。
						H25	240	100.0%					

**注：再評価理由**

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業